特集　環境汚染を考える

このような方法で、市民に具体的に呼びかけてくださりありがとうございます。

考えてみますと、ごみは私たちが生活の中で作りだすものでありながらそのごみに対する責任を怠っていたのです。住民も市からいわれて仕方なくではなく、どうすればごみ減量が出来るのか、自分たちで出来る努力を始めるべきだと思います。

当番を決めてゴミステーションを清掃しています。

家の周りでも、年配の方々は昔から庭で燃やしているからと反省の気がありません。

燃やさないでといっても聞きません。もっとダイオキシンの怖さを身に染みて欲しいです。

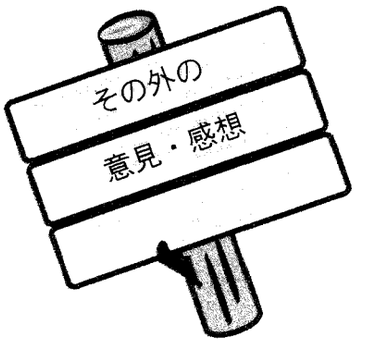
近所で燃やしている人がいたので注意をしましたが、家の周りで燃やしてもいけないそうですね。気をつけます。

家庭によっては、燃やす所が無いので全部ごみステーションに出している家がありましたが、その外の家庭では、紙類などはほとんどの家で焼却していました。

燃やした後の灰などの処理に問題があります。川へ流すのは特によくありません。

公害にならないくらいの時もあるが、黒い煙りが漂っている時もある。ゴミは、処理場へ出してほしいものです。

団地の川の向こう側の会社では、毎日、ゴミをドラム缶で燃やしています。もう少し環境について考えてほしいものです。



犬小屋の掃除をよくして欲しい。悪臭、ハエの発生で困ります。

環境の問題などあるが、草、木、紙は焼却してもよいと思います。

スーパーの包装に手をかけすぎているので、ゴミの原因にならないように工夫してもらいたい。

ダイオキシンの怖さを認識しており、家で燃やす物を良く分別し（木のくず、植込の中のもの）その外のものは燃やしていません。このまま続けたいと思います。

調査の結果、皆さんが地球環境問題に協力的で関心を持っていることが分かり、大変うれしく思いました。

主な意見・感想をそのまま掲載しましたが、貴重な提言や自らへの戒めなど様々なご意見をいただきありがとうございました。

ドラム缶などでのごみ焼却は、「野焼き」になり例え紙類などでも禁止されていることなど、まだまだ市民の皆さんに周知徹底を図らなければならない事項が数多くあります。

今後これらの提言を参考とさせていただき、平成十一年度には美化協力員の皆さんにアンケートをとらせていただくなどの方法で、さらに検討を重ね何らかの形で徹底をしていかなければならないと考えています。

また、来年度から「人・まち・自然にやさしいグリーンアクションつる」プランを策定し、より具体的な取り組みを計画していますので、尚一層のご協力をお願いします。

都留文大生もごみ問題に一役

都留文科大学社会学科の学生６名が、文大生の住んでいる地域を中心に半年がかりで「つる文科大生のためのごみMap」を６００部作成し、昨年４月新入生などに配布しました。

学生たちは、全国各地からこの都留に移り住み４年間生活していかなければなりません。生活する上で「ごみ出し」には、どの学生も直面するはずですが、ほとんどの学生はごみの出し方も分別方法も知りません。それ故に、地元の自治会の皆さんにはお叱りを受けることもありました。

そこで立ち上がった鈴木卓郎さん（写真）外５名は、４年間住んでいて大学と下宿、地域の存在が見えにくかった。大学生の意識の中から地域である都留市が欠落してしまい、地域に住む条件の一つでもあるごみのことなど頭の中から消えてしまっていたことに気づき、「ごみMap」の作成を手がけたそうです。

今後は、市でオリエンテーションの時に、ごみの出し方の説明をお願いできればもっと効果的では。との要望を受けました。

社会学科４年
鈴木卓郎さん

つるごみMap